

CEATEC JAPAN 2015自動走行関連コンファレンスについて

日時	2015年10月9日(金) 10:30 ~ 12:30	聴講料	無料
場所	幕張メッセ・国際会議場 コンベンションホールA (500名)	テーマ	自動走行システムの世界の 研究開発動向を探る
入場者数	630名 (非公式)		
備考	CEATEC JAPAN/東京モーターショー連携シンポジウム		
アブスト	自動走行システムの実用化には、公共データ、プローブなどのビッグデータや、センサーの高度化による環境認識技術、人工知能(AI)の導入などによる車の学習能力、車自身のシステム化が必要不可欠とされており、こうした要素技術は、日進月歩で進化し続けています。 自動走行システムの実現に向けた研究開発は、日本、米国、欧州で、自動車メーカーのみならず、IT系企業や半導体メーカーまで、あらゆる業種が取り組んでおり、自動走行システムの本格的な社会導入に向け、日進月歩で進められています。 この講演では、自動走行システムの実用化に向けて、日米欧の自動走行システムにおける最先端の研究開発状況を講演いただきます。		

JEITA

CEATEC JAPAN 2015コンファレンス聴講予約はこちらから。 <http://eventregist.com/e/ceatec2015>

0

CEATEC JAPAN 2015自動走行関連コンファレンスについて

時間	登壇者	講演内容	
10:30 ~ 11:10 (40分)	松本 英三 氏 内閣府 大臣官房審議官 (科学技術・イノベーション担当)	「内閣府SIP自動走行システムの研究開発の取組について-戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)-」 自動走行システムは、SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)の1つとして位置づけられており、官民学の総力を挙げて推進されています。研究開発は、自動走行システムの開発・実証をはじめとし、交通事故死者低減・渋滞低減のための基盤技術の整備、国際連携の構築、次世代都市交通への展開という4分野について35に及ぶテーマが進められています。今回は、SIP主管の立場から自動走行に関する研究成果と最新の研究内容を紹介します。	
11:10 ~ 11:50 (40分)	豊田 啓治 氏 コンチネンタル・オートモーティブ株式会社 執行役員 ディレクター システム・技術統括担当	「コンチネンタルにおける自動走行システムの取り組み」 交通事故は人間のミスによるものがほとんどだと言われています。コンチネンタルでは、認知・判断・操作に関連した製品技術によりドライバーを補助し、更に個々の技術の高度化と統合によってビジョンゼロを目指す取り組みを進めております。日本でも2014年に自動運転のテスト車を導入し、実証テストを開始しました。独・米のチームと連携して、様々な交通事情や使用条件におけるシステムと製品の在り方について研究しております。	
11:50 ~ 12:30 (40分)	馬路 徹氏 エヌビディア シニア ソリューションアーキテクト	「1TFLOPS車載プロセッサ1個で実現する車載AI及び低速度自動運転」 最新の車載用プロセッサは初期のスーパーコンピュータ並みの1TFLOPSという演算能力を実現している。これにより低速度領域の自動運転や高度な画像認識が実現可能なDNN(ディープ・ニューラルネット)の処理が1チップで実現可能となった。膨大な時間を要するDNNの学習に対しては、車載用プロセッサGPUと共通のアーキテクチャをもつクラウド上のサーバGPUで高速に処理可能であり、このクラウド連携により商用的に実現可能な車載AIシステムが構築できる。	